



2025

アクティブシニアの買物意識と行動

2025年10月9日

本調査について

日本は世界有数長寿国ですが、平均寿命の延伸だけでなく、心身ともに自立して健康的に生活できる「健康寿命」も伸びています。これにより、60歳を過ぎても仕事や趣味、地域活動、旅行などに意欲的な「アクティブシニア」が著しく増加しています。そこで本調査レポートでは、全国の60歳以上のアクティブシニアを対象に、ライフスタイル、消費への意識の変化、生活と買物に関する価値観の変化について調査しました。

ADENDA

I. 普段の生活アクティブ度

デジタルデバイスの利用状況、情報感度・関心分野を調査しました。

II. 普段の日常生活について

現在の暮らしの変化、今後お金を使いたい分野、以前と比べた、消費全般に関する意識について調査しました。

III. 一般消費財の日常生活の利用について

一般消費財の購入場所、商品選択の基準・重視点・意識、商品情報を入手するメディアや場所について調査しました。

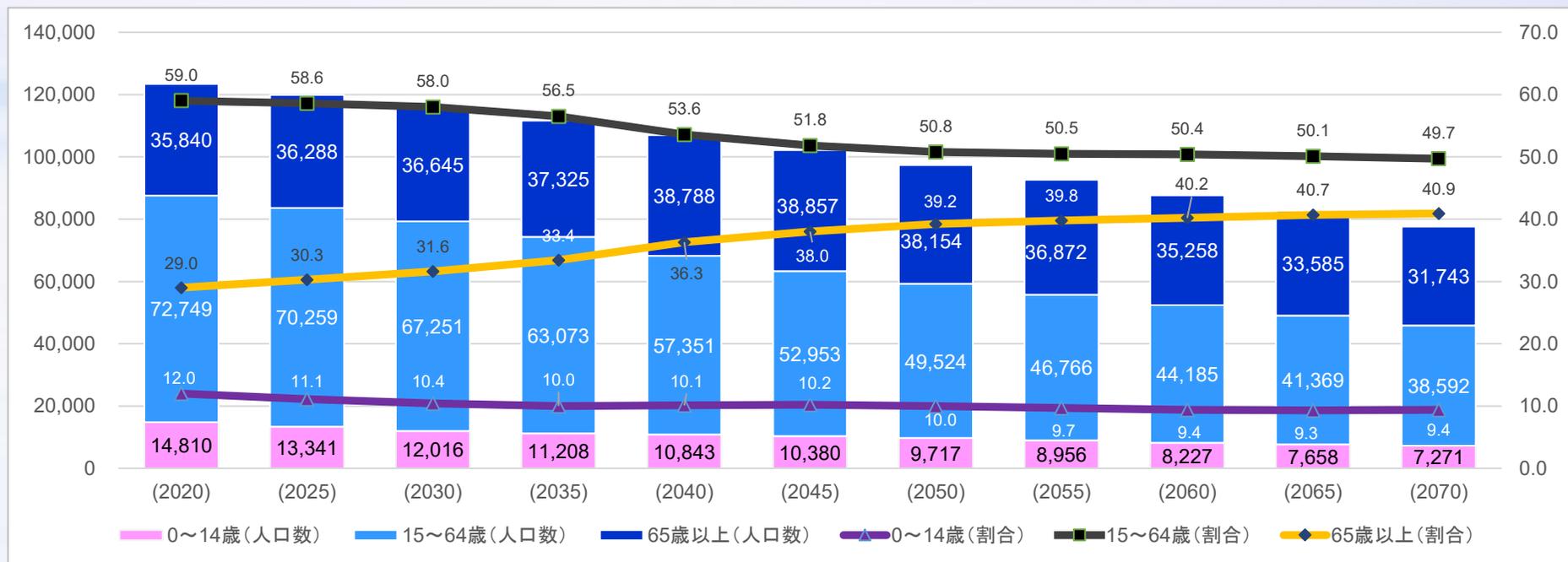
IV. 普段のお買い物について

商品購入のとき、商品や店舗に対する不満・改善希望点、要望について調査しました。

日本人の人口推移

総務省統計局令和2年国勢調査データによると、日本の人口は近年横ばいであり、人口減少局面を迎えている。2050年には総人口が1億人を割り込み、65歳以上高齢化率は40%近い水準になると推計されている。

人口 (万人)

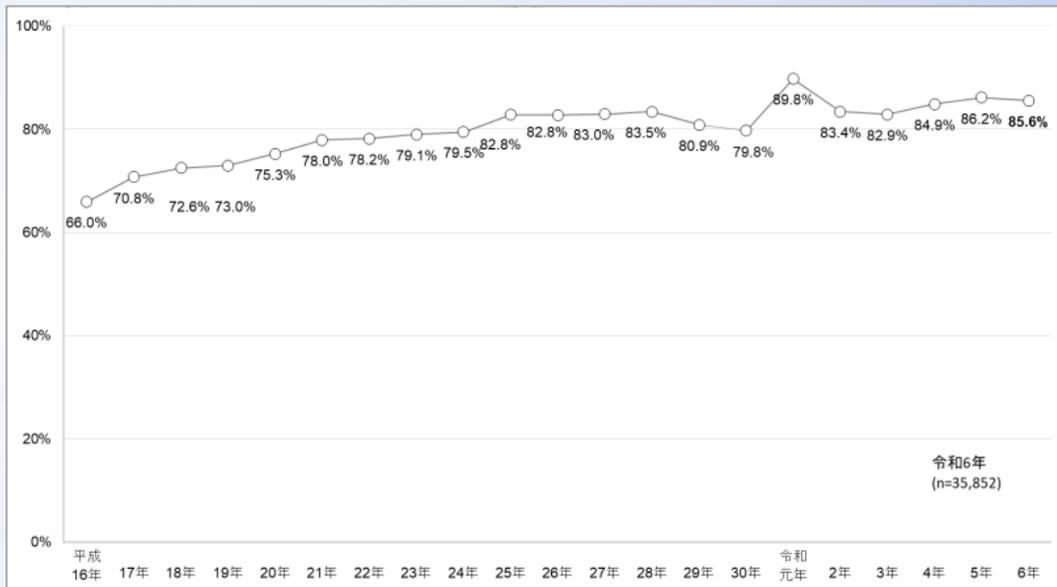


◇出典：国立社会保障・人口問題研究所_日本人参考推計表1「各年10月1日現在の日本人人口、令和2年(2020)年は、総務省統計局『令和2年国勢調査 参考表：不詳補完結果』による」を加工して作成

インターネット普及状況の推移

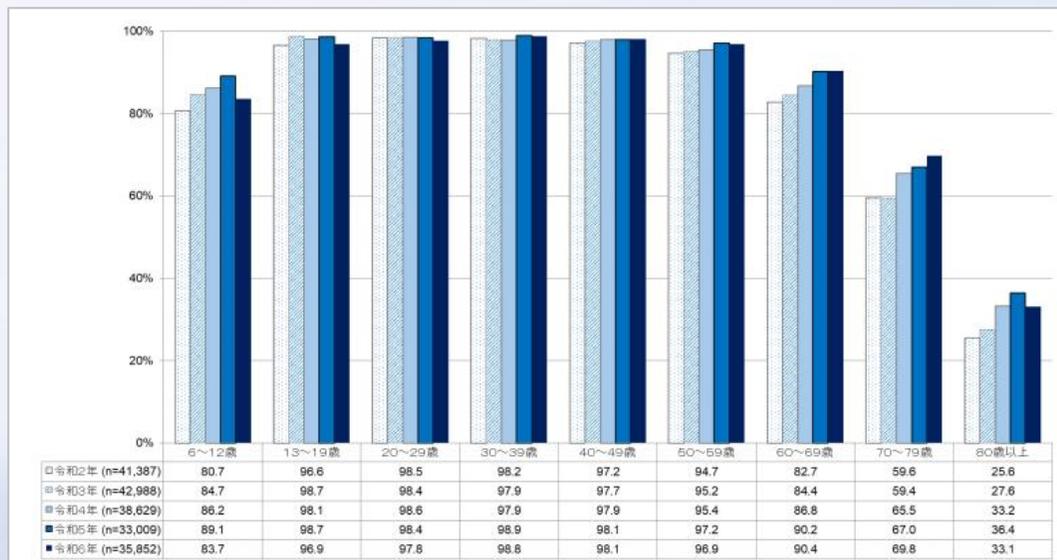
総務省の調査によると、2024年の個人のインターネット利用者の割合は全体で85.6%となった。13～69歳の各年代では90%を上回っており、ほぼ全ての年代でインターネットは身近なインフラとして利用されているようだ。

◇インターネットの利用状況の推移



◇出典：総務省「令和6年通信利用動向調査の結果（概要）」

◇年齢階層別インターネットの利用状況の推移

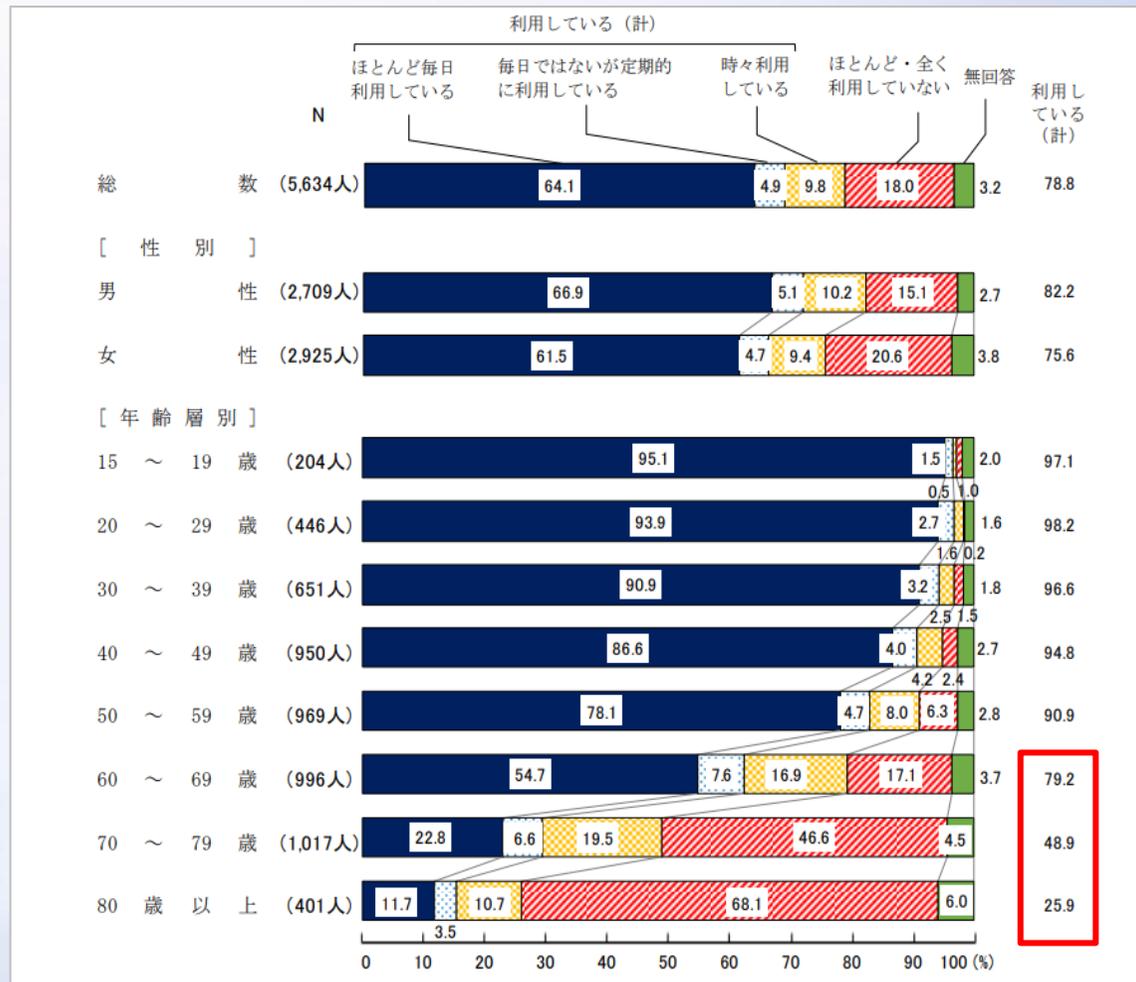


◇出典：総務省「令和6年通信利用動向調査の結果（概要）」

シニア世代のインターネットの利用状況（内訳）

消費者庁「消費者意識基本調査」にて、「普段、パソコンやスマートフォン等でインターネットをどの程度利用しているか」を聞いたところ、60～69歳まででは、「利用している」（計）＝「ほとんど毎日利用している」＋「毎日ではないが定期的に利用している」＋「時々利用している」と回答した人は、約80%、そのうち、約54.7%の人は、ほとんど毎日利用していることが分かった。
70～79歳では、約5割（48.9%）が「利用している（計）」。
80歳以上は、最も少ない25.9%という結果だった。

Q. あなたは、普段、パソコンやスマートフォン等でインターネットをどの程度利用していますか。



◇出典：消費者庁「令和4年度消費者意識基本調査」